

平成29年 ほくぎん若手研究者助成金 研究実績報告書

氏名	所属・職名		助成金額
長岡大樹	芸術文化学部・助教		250,000 円
研究課題名	建築家・渡辺豊和が考案した地域住民が愛着を持つ公共建築のつくりかた－現象学的設計法の解明－		
研究の概要	<p>本研究の目的は、建築家・渡辺豊和（1938- ）が実践し成功を収めた「地域住民が愛着をもつ公共建築のつくりかた」の一端を明らかにすることである。渡辺は1980年代から90年代中頃にかけて、地方都市（特に離島寒村）で10棟もの公共建築を手がけた。渡辺は公共建築を設計する際、その土地の「伝説・神話・昔話」を解読し建築化する方法をとった。地域住民が「無意識に欲している建築イメージ」を汲みとり形象化する方法を考案した。結果、地域住民は渡辺の建築が異形（個人的）であっても愛着を寄せている。本研究はこうした特異な設計法を、渡辺氏本人への聞き取り、現地調査、作品分析から明らかにする。</p>		
研究の成果	<p>地域住民が愛着を持つ公共建築のつくりかたを解明するために、渡辺氏本人に合計16回の聞き取りを実施した。すべての聞き取り内容は文章化し、渡辺氏本人の確認を経て、公的な証言記録としてまとめた。記録の分量はA4用紙190枚である。</p> <p>現地調査・作品分析は、龍神村民体育館・西長野小学校・秋田市立体育館を対象に実施した。また国立国会図書館で渡辺氏に関する文献収集を3回実施した。渡辺氏が会長を務めるイワクラ（磐座）学会に参加した。こうした研究活動を通して、渡辺氏の特異な設計法の基礎的内容が明らかとなった。本研究を継続・発展させるために「平成30年度 科学研究費助成事業」に申請し、採択された（研究代表者：長岡大樹、基盤研究（C）、課題番号18K00230、研究期間：平成30年度～32年度）。現代日本の公共建築の画一化・均質化が進むなか、本研究で得られた知見と可能性は、公共建築をつくる際、公共建築の在り方を検討する際、有効と考えられる。</p>		
研究成果発表状況	平成30年4月の時点で特になし		
経費の執行状況	区分	執行額(円)	備考
	物品費（図書費）	20,700 円	研究関連図書8冊
	旅費	220,800 円	龍神村民体育館・西長野小学校・秋田市立体育館等の調査旅費、国立国会図書館の調査旅費、イワクラ（磐座）学会の参加旅費（広島県福山市で開催）
その他（資料複写代等）	8,500 円	国立国会図書館の資料複写代	